でん太の教えてドクター

その㊺

お口の健康と母乳保育 Vol.3
「赤ちゃんが分解できるものとできないもの」

お話／足立優歯科診療所　足立　優　院長

逃してはいけない「臨界期」

でん太　母乳保育を学ぶシリーズでは、赤ちゃんはお母さんのおっぱいから母乳を飲んで育つことが、あごや舌の発達やお口の健康にも大切なことだと学んでいます。

Dr.　赤ちゃんが母乳を飲む時期は「臨界期」と考えなくてはなりません。臨界期とは、この時期に習得できなかったことは、あとで習得しなおすことはできない時期のこと。つまり、母乳を飲むこの時期に、しっかりお乳を飲んで、あごの筋肉をきたえたり、唇の動かし方の練習や骨格成長ができなかったら、あとで練習してきたえなおすことは絶対にできないということなんです。

でん太　大きくなってから、噛む力をきたえなおそうと思っても無理だということだね。

Dr.　また、離乳食については「3ヵ月ごろから、ジュースや、野菜をすりつぶしたものなどを与えるのが良い」という指導が多く見られるけれど、そういったものを、一般食へ向けての練習だと思ってあげてもまったく意味はないということも前回お話ししたね。おっぱいから母乳を飲むことが、あごの発達に唯一必要な動作だということ。そしてまた、母乳以外のものを赤ちゃんの身体が取り込むためには、身体の側の準備が整わないといけないということも知っておかなくちゃいけないよ。左の図を見てみよう。これは、消化酵素の強さが、年齢を重ねるごとにどんな変化をみせるかを表したものだよ。

でん太　消化酵素というのは、表にある「アミラーゼ」や「ラクターゼ」といったものだね。

Dr.　そう。「アミラーゼ」や「マルターゼ」というのは、デンプン質を分解する酵素だよ。デンプン質というのは、お米など一般の食物に含まれるものだよね。

でん太　表を見ると、出生時には「アミラーゼ」などはほとんどない。つまり、デンプン質を分解する酵素を、赤ちゃんのころはほとんど持っていないということだね。

Dr.　逆に、「ラクターゼ」や「ガラクトキナーゼ」というのは、乳糖を分解する酵素。表から見ると生まれたばかり（出生時）にはとても強いから、母乳などの乳糖は分解す

ることができるんだね。

でん太　なるほど。では、赤ちゃんのころに、母乳以外のすりつぶした食べ物などをあげても、赤ちゃんの身体の中では分解できずに、外に出てしまうんだ。

Dr.　うん。アミラーゼなどのデンプン分解酵素は大きくなるにつれて増えていき、離乳期を過ぎると、乳糖分解酵素に変わって、これらのデンプン分解酵素がしっかり作用するようになるのが、人間の身体の構造なんだ。

酵素の分泌が地域によってちがう？

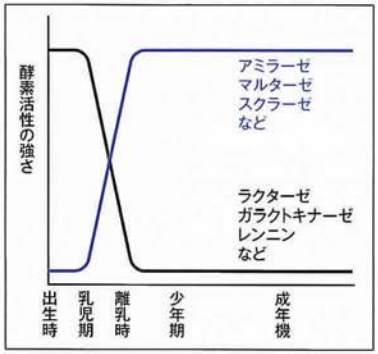
Dr.　余談だけれど、ごく一部、北ヨーロッパ系の人々は、成人してもラクターゼなどの乳糖分解酵素が強く分泌されるんだって。

でん太　へえ、同じ人間でも構造がちがったりするんだ。

Dr.　というのは、そういった人たちは、およそ数千年にわたって牛乳を飲み続けてきたヨーロッパ系の人々や、砂漠の周辺で昔からラクダの乳を飲み続けてきた人たちなんだ。

でん太　食べものがちがえば、身体の中もちがっていくんだね。

Dr.　こんな話があるよ。昔、明治期に、海外から来た外国人が、人力車を引いて走る日本人を見てびっくりした。こんなに力持ちの日本人は何を食べているんだろうと思って飯場をのぞいたら、ご飯とみそ汁と、少しのおかずだけだった。それで外国人は、自分たちの食生活を分析した栄養学による、理想的な食事を食べさせたらもっと元気になるんじゃないかと思ったようで、彼らにあげたんだって。そうしたら、元気になるどころか、結局体調をこわしてしまったという話があるんだ。特に日本人は、お米を中心に生活してきた農耕民族だから、それに適した身体の構造になっているんだよね。



（図）消化酵素活性の強さの経年変化

■足立　優（あだち　まさる）
1960年生まれ。大阪歯科大学卒。1988年米国留学後、神戸市東灘区に足立優歯科診療所開設。行動医学の概念を基盤とした自己決定に基づく予防管理中心型の歯科医療を展開する。また、この概念にもとづく医療システムの普及のために「NPO法人・明日の歯科医療を創る会POS」を設立し、社会に対して歯科医療情報の公開と、よりよい歯科医療を求める患者の支援を行なっている。

●明日の歯科医療を創る会
ホームページ
http://www.asunoshika.com
☎078・435・4618

足立　優歯科診療所

神戸市東灘区岡本1・3・33
TEL 078・411・0024　FAX 078・411・0056
mail.adachi@kba.att.ne.jp
http://ado.pr-business.net
※これからは患者の権利を守る予防歯科医療が主流となります。情報をお知りになりたい方は、Dr.足立までお問い合わせ下さい。

連載　おもしろ浮世絵講座・江戸人の遊び心 ⑲

造型のマジック

中右瑛

造型の妙技

怯える清盛の幻覚「新形三十六怪撰」　大蘇芳年画

前回は、広重による「雪景色の中のガイコツ」の意外な「造型の妙技」をご紹介したが、今回は最後の浮世絵師といわれた、明治時代の奇才・大蘇芳年の「造型の妙技」をご覧いただこう。

左図は、屋敷でくつろぐ平清盛に、背後から怪しいもののけが襲いかかる。そのもののけは海坊主ならぬ月坊主のようでもあり、ガイコツのようにも見える。「ススキ野に大きな月」が描かれた襖。襖のトッテがガイコツの目玉に見えるようにトリックされている。

『平家物語・物怪之沙汰』では、福原の清盛は妄想に悩まされ続けた、とある。「平治の乱」で殺された源氏の武将の怨霊や反平家台頭の声に怯え、その幻覚が清盛を襲った。単なる襖の絵をもののけと錯覚した幻覚の清盛。

前回の、広重の画が「庭の雪景色が一瞬にして髑髏となる」というシュール（超現実）性を狙ったのに対して、この図は怯える清盛の幻覚を表現し、トリックされた奇抜な発想で見るものに迫る。

大蘇芳年の作品には、サムライ、ハラキリなど武士の精神性を絵にしたものが多い。晩年は、血みどろ絵、残虐絵、殺しなど死の美学の極限を追求したあまり、みずからも錯乱に陥り、意識朦朧、苦悶の中で絵を描き続けたという。この絵の清盛と、絵師芳年自身が二重映しに見えてくる。

題筌の「神形…」とは、「神経」をもじったものである。

こうした芳年のマニアックな世界を賞するファンは多く、芥川龍之介、江戸川乱歩、三島由紀夫らも、その一人である。

背後のふすまとガイコツのオーバーラップした幻想表現は見事に成功している

■中右瑛（なかう・えい）
抽象画家。
浮世絵・夢ニエッセイスト。
1934年生まれ、神戸市在住。
行動美術展において奨励賞、新人賞、会友賞、行動美術賞受賞。浮世絵内山賞、半どん現代美術賞、兵庫県文化賞、神戸市文化賞など受賞。現在、行動美術協会会員、国際浮世絵学会常任理事。
著書多数。

「新形三十六怪撰」大蘇芳年

海船港

今春も華麗な外国クルーズ船が続々と

文・写真　上川庄二郎

中突堤に停泊するクリスタルシンフォニー

【様変わりしつつある中突堤界隈】

中突堤がリニューアルオープン(2008.1.11)してから二年半が経過した。

神戸港は、今年(2008)1月1日に開港一四〇年を迎えた。これを記念して大々的に祝賀イベントを組んだこともあり、神戸港に寄航したクルーズ船は震災後初めて一〇〇隻の大台に乗せた。

もちろんすべてのクルーズ船が中突堤に入ったわけではないが、それでもメリケンパークからハーバーランドにかけてのウオーターフロント界隈の賑わいは以前よりもぐっと増した。神戸市の客船誘致策の努力が着実に定着し始めつつあると考えていいだろう。

その影響というか効果というか、いい悪いは別にして、この周辺はホテルの建設ラッシュである。また、〝みなと〟を見下ろせる高層マンションは、売れ行き好調だという。

しかし、私が一番恐れているのは、このウオーターフロントを中心にしたダウンタウン(都心)のグランド・デザインの策定が後追いになっているのではないかということである。

気が付いてみると、スプロールが先行して取り返しの付かないことになっていた、なんてことにならないことを願うのみである。

【〝みなと〟を活気付けてくれる外国船】

さて、愚痴っぽいことばかり云っていても始まらない。やはり、〝みなと〟が活気付くのは華麗なクルーズ船が入ったときである。殊に、大型の外国クルーズ船が来航したときは格別である。

3月26日は、中突堤にはクリスタルシンフォニー、ポー

ポートターミナルのスタテンダム

わった。これが、同じ埠頭で左右に着岸できれば申し分のないところだが、今の神戸港の現状では無理な注文というもの。

対岸の突堤は、写真を撮る人、写生する人などで一杯だ。

今年2回目の寄航で華やぐステタンデム

スタテンダムは4月22日の夜にも入港し、電飾で港に華やいだムードを醸し出してくれた。

クリスタルシンフォニーは、ご存じ飛鳥Ⅱ(旧クリスタルハーモニー)のかつての姉妹船であるだけに、余計に親しみが湧く。

また、これに先立ち4月2日には、昨年に続いてノーチカも中突堤に入港した。

すっかりお馴染みになったスピリッツ・オブ・オセアヌスもすでに二回寄航している。

特に印象に残るのは、日本初寄航の大型船・ラプソディ・オブ・ザ・シーズ(78,491t)が三度神戸港にやってきたことだ。乗客定員二四三五人といえば半端な数ではない。乗組員七六五人を加えれば三一〇〇人だ。この船については、次号で取り上げるとしよう。

日本の船が揃ってワールドクルーズに出てしまっているこの時期に、〝みなと神戸〟が活気付くのも外国クルーズ船様様といったところ。

唯一残念なことは、3月19日が引退を前に最後のクルーズとなったクイーンエリザベス2が、大阪港に寄航し神戸港ではなかったことである。

神戸港には、これからも外国クルーズ船誘致で頑張って貰いたいとだけ云っておこう。

中突堤を出航して和田岬に向け方向転換したノーチカ

■かみかわ　しょうじろう
1935年生まれ。神戸大学卒。神戸市に入り、消防局長を最後に定年退職。その後、関西学院大学、大阪産業大学非常勤講師を経て、現在、フリーライター。

第16回全国菓子大博覧会」で
洋風工芸文化大賞を受賞し、
自信をつけた毅は、独立を決意した。
1966年のことであった。

情熱の洋菓子職人

The artisan spirits ～Tsuyoshi Hiyane Story～

比屋根毅物語〈第七話〉

漫画：佐藤晴美
（大手前大学 メディア・芸術学部 講師）

銀行——
銀行
賞状を——
担保にねェ…
これは
近畿洋菓子
コンテストのものです
ABC各クラスで
10年連続で優勝を
いただきました
独立して
洋菓子店を
開きたいんです！
融資をお願い
できない
でしょうか
——さすがに
これでは…
私どもでは
お金をお貸しする
ことは
できませんねえ
担保がないため賞状を
持って銀行に融資を
願い出たが、あっさり
断られてしまった。
……
しかし毅は
あきらめない人間だった。

その後も何度も銀行に通った。
うわっ また来られたんですか！
これは秋田の菓子博で大賞をいただいたときのものです
これでなんとかお願いしたいんです
……
私の腕を信用してください！ おいしい菓子店をオープンします どうぞお願いします！
…負けました！ いいでしょう 特別にご融資させていただきます
ありがとうございます！

結果、銀行から
270万円の融資を
受けることができた。
そして尼崎市立花の
7坪の敷地で
「エーデルワイス」が
創業したのである。
エーデル
フランス菓子
エーデルワイス
兄ちゃんが
独立すんのやったら
おれも手伝うで！
毅と数年前に結婚した妻、
そして大賀製菓から
弟子が一人、会社を辞めて
ついてきてくれた。
3人でのスタートだった。

しかし――

場所のせいかな…

近所の
洋裁屋へ売りに
行ってみるかな…

来る日も
来る日も

客がまったく来なかった。
店は商店街から
かなりはずれの
田んぼの中にあったのだ。

開店してそろそろ半年――店は利益どころか売上げすら満足に立たなかった
……
あなた…そろそろ融資の返済期限が来るわよ
ああ…
やはりおれはただの職人やった…独立して商売なんて大それた話やったんや…
しかしせめて銀行から借りた金は返さなくてはならない。

ええ
——やはり無理でした
で…以前おっしゃっていた条件でやらせてもらえませんか
実は独立前、毅に職人になってほしいという洋菓子店からのオファーが多数あった。それのどれもが好条件であったのだ。
借金は肩代わりしてくれるそうや…この店はたたむ
やはり無理やった
……
……
……
——おれは経営者として甘えがあったのかもしれん失敗しても、声をかけてくれた洋菓子店に戻ればまた良い条件で働くことができるのだから——と

よし！

毅は倒れる前に
大勝負に出た。

今夜は徹夜や！
あるだけの材料で
ありったけの菓子を作る！

え？

ぐっ

菓子作って、
明日このあたりの
みんなに
タダで配んねんや！

は…

弟子も
みんな呼べ！
忙しなるで！

妻は、いよいよ
夫がおかしくなってしまったと
思った。

……

店の地図と
連絡先を入れて
近所の店、あと会社に
配りまくってくれ！
弟子たちは
菓子を配り歩いた。
立花には、神戸製鋼や
旭ガラスといった
大企業がたくさんあり
それらにも配ってまわった。
みんな、ありがとう！
やるだけのことはやった！
店閉めたら、
おれはまた職人になる
ついてくるんやったら
来いや…
お疲れ…
お疲れさん
……
明日だ…
とにかく一度食べてもらえれば
お客さまは
絶対買いにきてくれる…！

翌朝
…
…ン
…ド
ド…ン…
ドン
！
昨日のお菓子おいしかったわー
買いにきてん
今日休み？
続